

## 令和5年度事業概況

(令和5年4月1日～令和6年3月31日)

### 特定非営利活動法人 泉 里 会

新型コロナが第5類に変更になったが、館岡の入居者3名及び職員3名が新型コロナに感染し、また入居者、職員もインフルエンザに感染するなど決まりきった人数での勤務には、何かと調整の連続で苦労を強いられた。10月に世話人を一人パートで雇うがまだ職員の不足である。

入居者にも、高齢化が目立ち、入院を必要とする病気になり、1か月間入院する入居者も現れた。

介護収入は食費の値上げもあり75万円増加し、ショートステイはまだ新型コロナやインフルエンザの影響もあって、利用希望者が多数あったが感染拡大防止の為、お断りをしたので46千円の微増にすぎなかった。

相談支援は、順調に伸び児童を含め58名が対象となり、気仙沼市の近隣市町村へと広範囲になり、97万円の増加となった。

寄付収入が企業からの寄付も激変し、前年度の半分以下になった。

最終的な売上高は前年比163万円の増加となった。

一方経費に関しては、国の職員の処遇改善を受け入れ、それに対する助成もあるが、常に助成額よりも多く出さざるを得ない状況で、給与、賞与、法定福利費等の人件費が380万円増加した。

食費は4月より1ヶ月一人8000円値上げしており、その分が食費の増加につながっている。

保険料の値上がり、コロナ対策の消耗品関係の購入、支払手数料の増加など他の項目も値上がりで経費の増加が目立つが、その中で、水道光熱費、車両関係費など、節約や、安い日に購入するなど法人内での経費節減の努力もした。

減価償却費が前年度より88万円も減っている。当期に資産に計上する物は購入していない。

全体では398万円の経費増であり、その内の95%が人件費の増加であった。

宮城県からのマスクやゴム手袋などの消耗品に対する補助金はなくなり、原油価格、物価高騰等の補助金があったが、前年度よりも減少している。

障害者支援法の改正にあたり、入居者の世話をする為に初任者研修の修了証書等が必要とされ、それに伴い職員1名、世話人1名、夜間専門員1名の合計3人がその学校に通い、初任者研修の講座を受け修了証書を得た。それに対する助成金もあり、支給を受けている。借入金が当期で支払が終わった。

洗濯機や掃除機、ブルーヒーター等、故障し修理に出し、買換えも行った。また館岡ホーム食堂の照明器具も故障して、電気がつかず、修理依頼を掛けたが器具自体が製造中止となって廃盤となっており、新たな器具に変えざるを得なかった。

また猪の鼻ホームのブレーカーが落ちるとのことで電力量も変更している。

老朽化と陳腐化が両ホームに進み買替時期が来たが、資産計上できるものはなく、すべては雑費等の勘定科目で処理した。